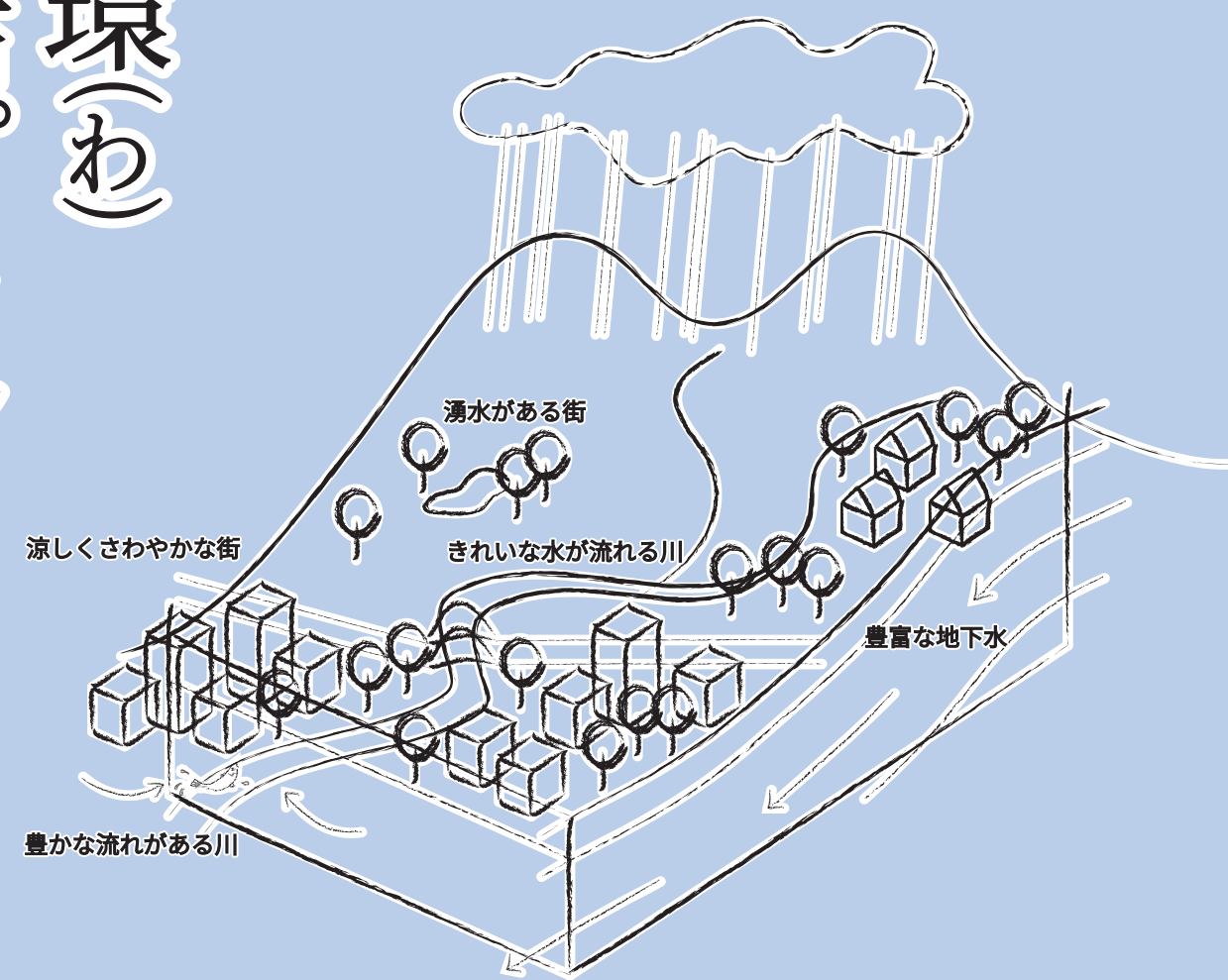


なごや 水の環(わ) 復活プラン

豊かな水の環(わ)がささえる「環境首都なごや」をめざして



雨 うっとうしい、“やだなあ”と思われはじめてどれくらいたつのでしょうか。

私たちは、“雨にも負けず”快適で過ごしやすい街づくりに努めてきました。
例えば、降った雨はとどこおらず、すみやかに排除できるように。
おかげで、長靴が下駄箱のすみに追いやられ、
雨に濡れた土の感触だって、私たちはもう忘れがちになりました。

しかし、一方で水辺で遊ぶ子どもの姿は少なくなり、
川のよごれに不満を感じる人も多く、
そして、なによりも、夏暑く、
季節を楽しむ余裕がなくなってきました。

快適な街には豊かな“水の環”が必要です。

なごや水の環(わ)復活プラン 概要版

名古屋市環境局公害対策部公害対策課

〒460-8508
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話：052-972-2675（ダイヤルイン）
FAX：052-972-4155
電子メール：a2675@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

プランの趣旨

降った雨は、大地にしみこみ、草木を潤し、大気をすがすがしくし、生きるものを育て豊かにしてくれます。

この自然の水の流れに加えて、私たちは都市生活を支えていくために、水道などの便利で素早い水の経路をつくってきました。

自然の水の流れと人工の水の流れがバランスのとれた状態を"水の環"といいます。

この"水の環"が損なわれてきました。

かつて、川は水遊びや舟運など人の生活にも大きく関わっていましたが、埋め立てられたり、暗渠^{あんきょ}になってしまい、その姿を消してしまいました。

都市化が進み、街がアスファルトやコンクリートに覆われ、雨が地下にしみこまなくなってしまうしました。そのため、湧水が減ったり、降った雨が地表を一気に流れやすくなって洪水の危険性が増したりしています。

また、川の汚れに不満を持つ人も多く、緑が減ったことで緑や水による冷却効果が下がり、ヒートアイランド現象などの問題が起こっています。

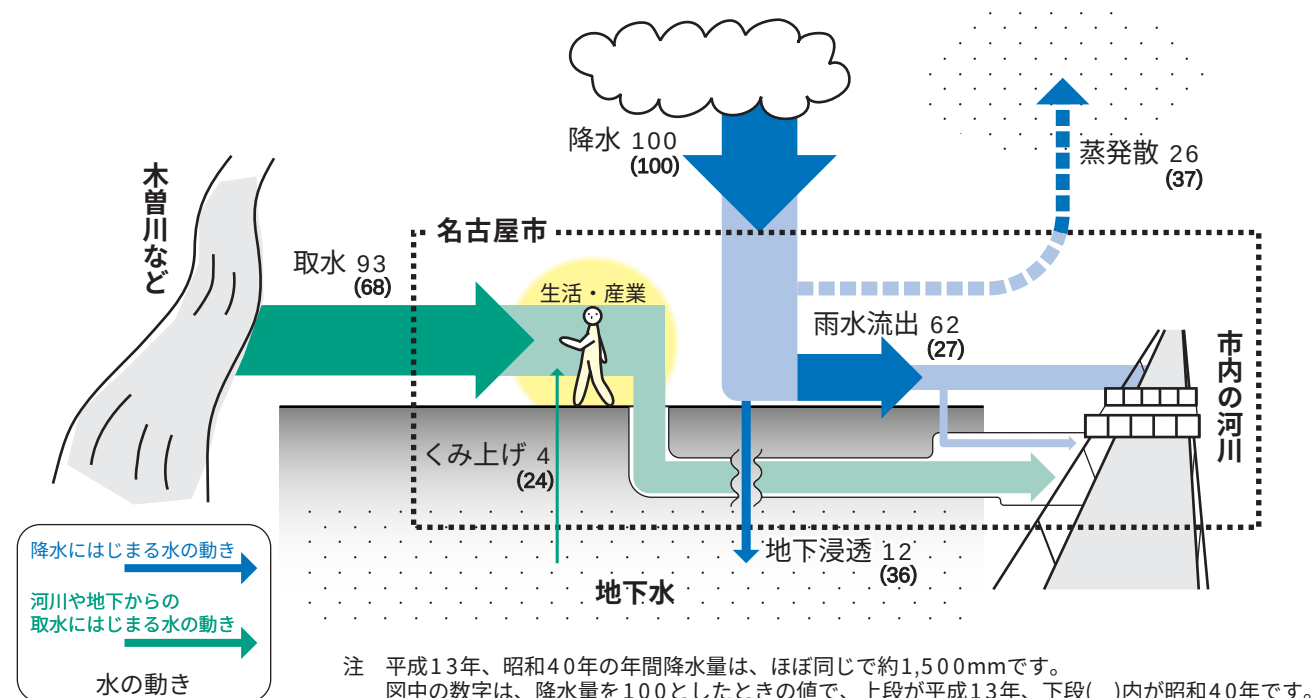
なごや水の環（わ）復活プランでは、人の活動と水循環の調和を考えながら、損なわれた水の環を復活することで、これらの問題を解決し、豊かな水の環（わ）がささえる「環境首都なごや」の実現をめざします。

現状（なごやの水収支）

平成13年について、名古屋市域への降水量を100として水の動きを表すと、下の図のようになります。例えば、名古屋市に降る雨は、約62%が、地面にしみこむことなく地表面を流れて川に至っています（雨水流出）。

昭和40年（図中の（ ）内の数字）と比較すると、地下浸透量が約3分の1、蒸発散量が約3分の2に減少する一方で、雨水流出量が2倍以上に増加しています（緑の減少や舗装率の上昇等によるものです）。

大気、川、植物、地面などの相互の水のやりとりが減っていることが読み取れます。

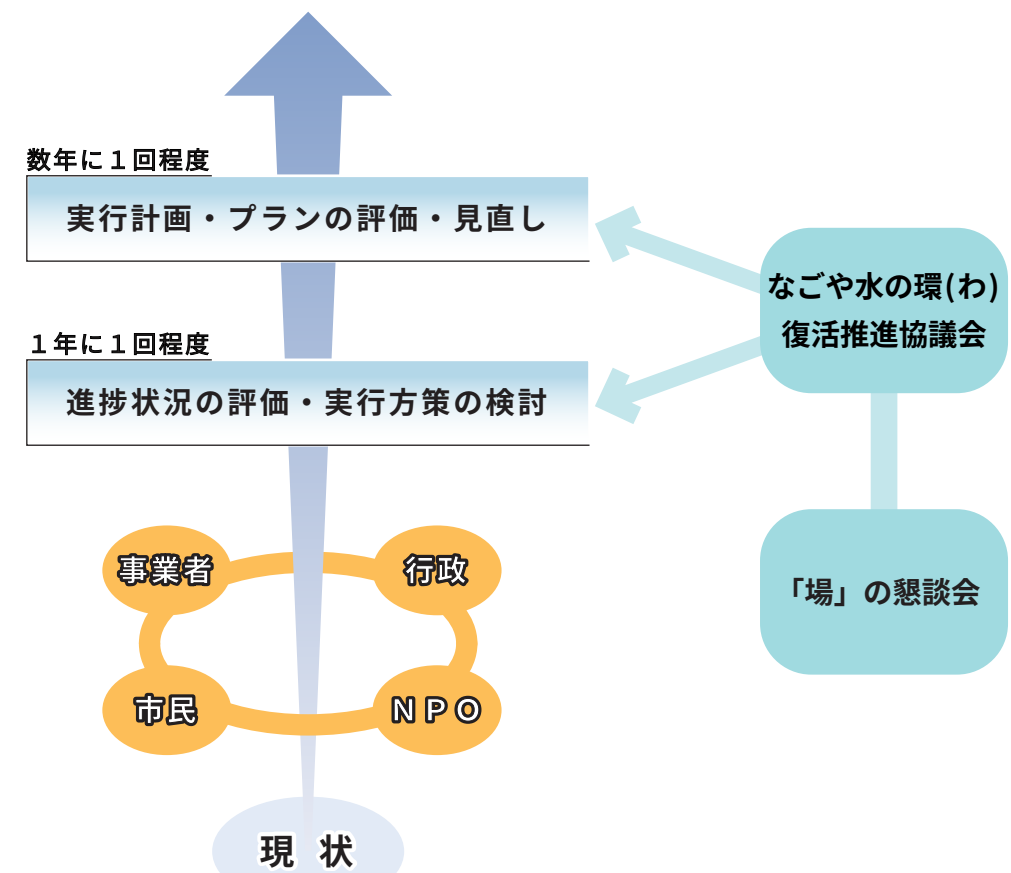


プランの推進

「なごや水の環（わ）復活プラン」の理念である「豊かな水の環（わ）がささえる『環境首都なごや』」を実現するためには、行政だけでなく市民やNPO、事業者がお互いに協力、連携して取り組みを展開していく必要があります。

プランの推進にあたっては、社会情勢の変化などにも柔軟に対応できるように、計画・実行、分析を継続的にを行い、必要に応じてプランの見直しを行いつつ以下の体制で取り組みます。

「豊かな水の環（わ）がささえる『環境首都なごや』」の実現



なごや水の環（わ）復活推進協議会

学識経験者、市民代表及び「なごや水の環（わ）復活プラン」の推進に関連する行政の各部署から構成される組織とし、プランを効果的・効率的に推進するための実行計画を検討するとともに、水の環復活プランの進捗状況について議論し、必要に応じてプランの見直しを行います。

「場」の懇談会

水の環は地面からの雨水の浸透、湧水としての地下水の湧き出し、豊かな川の流れ、緑地や水辺での蒸発散など、様々な場から成り立ち、大きな水のつながりを形作っています。

これらの場を健全に保ち、さらには広げていくため、湧水地やため池などの場ごとの懇談会を作ります。

場の懇談会では、関係するNPOや市民、事業者及び行政が、問題点・課題を議論し、主体的に対策に取り組んでいきます。



取り組みの4つの柱

豊かな水の環(わ)がささえる「環境首都なごや」を実現するため、次の4つを取り組みの柱として、対策を進めていきます。

① 豊かな地下水・湧水をとりもどしましょう

雨を地下にしみこませるために、透水性舗装や雨水浸透ますといった雨水浸透施設の設置を進めましょう。雨を多く地下にしみこませることは、地下水を取り戻し、地表を一気に流れる雨が少なくなることから洪水の防止にもなります。

また、豊富な地下水の象徴である湧水を守るために、水源となる緑を守っていきましょう。

現在の取り組み

- 雨水を地下に浸透させる雨水浸透施設の設置を進めます。
- 湧水地の保全を進めます。
- 堀川へ浅層地下水を導入します。



堀川沿いの地下水

今後検討する課題

雨水浸透施設の一般家庭への普及

雨水を多くしみこませるためには、市の面積の約6割を占める、民有地での取り組みが欠かせません。そこで、雨水浸透施設の設置を効果的に進める方法の検討をします。

災害時などの地下水利用

雨水の浸透により回復した浅い層の地下水について、手押しポンプを利用して、災害時の水源として活用するなどの検討をします。

② 魅力のある水辺環境をつくりましょう

川や海の水質を良くするために、合流式下水道の改善や、下水道の高度処理の導入などを進めます。また、地下構造物に漏出する地下水や下水再生水などを活用して、多様な生物が息できる環境を整え、魅力ある水辺環境をつくりだしていきましょう。



山崎川

現在の取り組み

- 河川を浄化するため、合流式下水道の改善や下水処理場における高度処理の導入を進めます。
- 親しまれる河川の整備を進めます。

今後検討する課題

漏出地下水などの未利用水の活用

都心部では、水とのふれあいの場が少なく、せせらぎや親水施設の設置が求められています。そこで、環境を良くするための水源としての地下水の利用について検討します。

③ 水と緑のネットワークをつくりましょう

ヒートアイランド現象を緩和するためには、緑地や水辺の蒸発散の力はとても重要です。その効果は、緑や水辺がまとまっている方が大きくなります。みんなで緑を増やし、水と緑のつながりをつくっていきましょう。また、水と緑のつながりが広がると、生物の生息場所や移動経路を確保することにつながり、生物の多様性が確保されることが期待できます。

現在の取り組み

- 緑地やため池の保全を進めます。
- 家庭や事業場での緑化を推進します。
- 雨水を貯めて樹木への散水などに利用します。

今後検討する課題

「みち・みず・みどりのネットワーク」の構築

人と自然が共生する都市、協働と循環社会をめざして、道路、河川、公園緑地、農地などを有機的につなぐネットワークを構築する必要があります。



戸田川緑地

④ みんなで水の環の回復にとりくみましょう

なごやの水の環は、名古屋に住む人、働いている人、すべての人が関係者です。市民、NPO、事業者、行政など、立場の異なる人々が、お互いの個性や役割を認め合いながら、対等の立場で力をあわせることが求められます。

このため、これらいろいろな立場の人々が連携をして、みんなでなごやの水の環の復活をめざしましょう。

現在の取り組み

- 次代を担う子供たちへの環境学習を実施します。
- 市民による水質調査などを実施します。
- 「打ち水大作戦」など、水の環を認識する活動を実施します。

今後検討する課題

連携をして水の環の復活を進めるための仕組みづくり

水の環の復活に向けては、行政だけでなく、市民やNPO活動が不可欠です。そこで、市民が気軽に行政と連携して、水の環の復活に向けて行動できる仕組みについて検討します。



堀川